



# 2018年に向けた豪州株式市場の3つの注目ポイント

- 17年の豪州株は08年1月以来の高水準を回復。先進国株と比較した割安感から、豪州株には見直しの余地が残る。
- 豪州政府の財政見直し改善が投資家の信認を下支え。20年度の財政黒字化に向けて着々と財政再建が進む。
- 豪州企業の景況感改善から設備投資に回復の兆し。企業活動の活性化が豪州企業の業績の押し上げに寄与へ。
- 海外勢による活発な豪州企業の買収が投資資金流入の呼び水に。不動産や資源、保険などの分野に買収広がる。

## 豪州株は2008年1月以来の高水準を回復

2017年の豪州株式市場は、9月頃までは情報技術セクターが主導した世界的株高の流れに出遅れる展開が続いたものの、10月以降は株価の急回復が進みました。

主要株価指数のS&P/ASX200指数は12月19日には6,071.79ポイントと年初来高値を更新し、2008年1月以来の高水準となりました(図1上段)。同指数の年初来上昇率は12月19日時点で+7.2%へ持ち直しています。

## 相対的割安感から豪州株には見直しの余地残る

2017年は豪州株の出遅れに伴って先進国株とのバリュエーション格差が拡大しました。12月19日時点の豪州株の12カ月先予想PERは16.47倍と、先進国株(17.35倍)に対して割安な水準にあり、豪州株にはなお見直しの余地が残されているとみられます(図1下段)。

特に2018年に向けて豪州株を再評価する上で、次の3つの注目ポイントが挙げられます。

### ① 財政見直し改善が投資家の信認を下支え

第一に、豪州政府の財政見通しの改善です。豪州政府が12月18日に公表した年央財政見直しでは、5月に公表した予算案と比べて今後4年間の財政見通しが改善し、2020年度(2020年7月～2021年6月)の財政黒字化に向けて財政再建が着々と進んでいることが示されました。

今回の年央財政見直しでは2020年度の基礎的財政収支の黒字額は+101.6億豪ドル(GDP比+0.5%)と計画され、5月の予算案での見直し(+74.2億豪ドル、GDP比+0.4%)から上方修正されました。

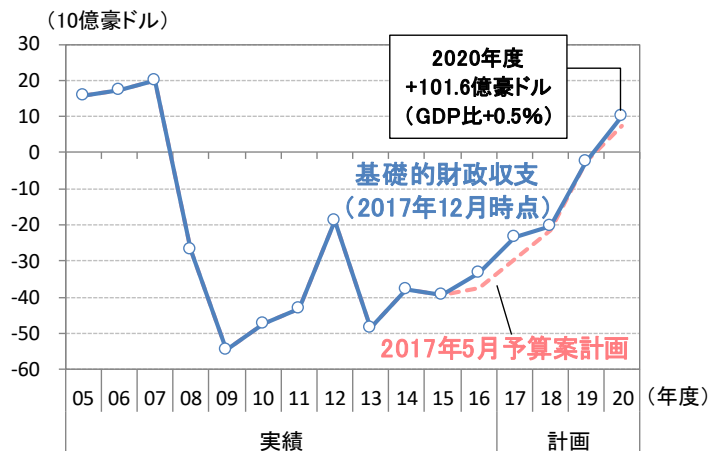
豪州政府の財政見通しの改善は、豪州国債のAAA格付維持を通じて市場での投資家の信認に寄与すると期待されます。また、財政再建が進めば、法人税減税や公共投資拡大などの政策余地が生まれる可能性があります。

図1: 豪州の主要株価指数とバリュエーション



(出所)ブルームバーグ (期間)2013年1月1日～2017年12月19日  
(注)豪州株はS&P/ASX200指数、先進国株はMSCIワールド指数。

図2: 豪州政府の財政収支見直し



(出所)豪財務省 (注)基礎的財政収支は政府系ファンドの収支を除いた財政収支(一般政府ベース)。年度は各年7月～翌年6月。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。



## ② 企業活動の活性化が企業業績を押し上げへ

第二に、豪州の企業活動の活性化です。2017年は豪州企業の景況感の改善が進み、資源投資ブームの一巡後は低迷が続いてきた民間設備投資にも回復の兆しが見られます(図3)。2010年代前半は資源セクターが設備投資のけん引役でしたが、足元ではサービス業などの非資源セクターが設備投資を主導し始めています。

2018年には企業景況感改善に伴って設備投資の回復が一段と広がると見込まれ、設備投資が将来の企業業績の押し上げに寄与することが期待されます。

## 18年度は豪州企業の業績拡大が見込まれる

2018年度の豪州企業の業績見通しは、非資源セクターと資源セクターの双方で業績拡大が見込まれます。ファクトセット集計の市場コンセンサスによれば、非資源セクターの2018年度の純利益総額は前年比+10.0%へ増益率の改善が予想されています(図4)。内需拡大が非資源セクターの業績の押し上げ要因となりそうです。

一方、資源セクターでも2018年度の純利益総額は、資源価格の回復や資源輸出の拡大に支えられ、2011年度以来の高水準へ業績回復が見込まれています。

## ③ 海外勢による豪州企業の買収が活発に

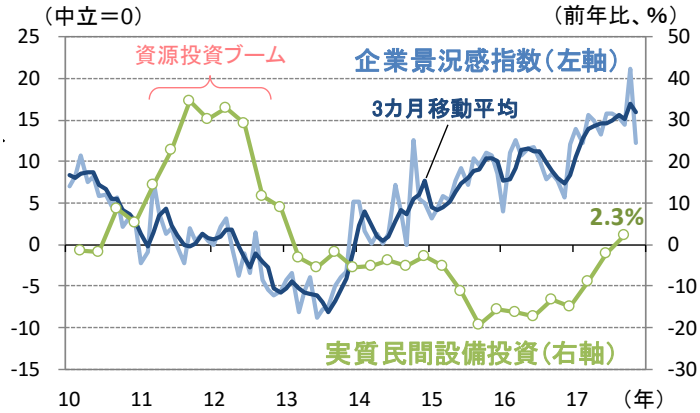
最後に、海外勢による活発な豪州企業の合併・買収(M&A)が、豪州株式市場への投資資金流入の呼び水となる可能性があります。

ファクトセットの集計によれば、2017年に公表された海外勢による豪州企業の買収額(計画・観測を含む)は680億豪ドル(約5.8兆円\*)と、2016年の564億豪ドル(約4.9兆円\*)から約2割増となっています(図5)。

12月12日には、欧州最大手REIT(不動産投資信託)ユニペイル・ロダムコが欧米主要都市でショッピングモールを保有・運営する豪州の大手REITウエストフィールドの買収を公表しました(買収額は247億豪ドル=約2.8兆円\*)。足元では、不動産のほか資源や保険、ヘルスケアなどのセクターでも海外勢による買収の動きがみられます。

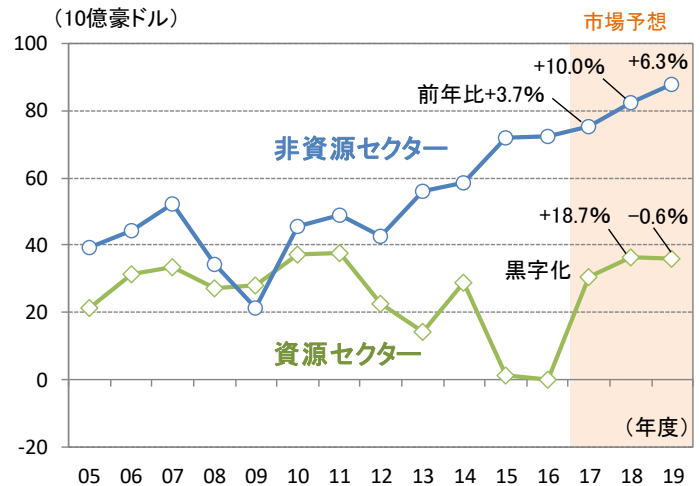
(\*)換算レート:1豪ドル=86円、1米ドル=113円

### 図3: 豪州の企業景況感と設備投資の推移



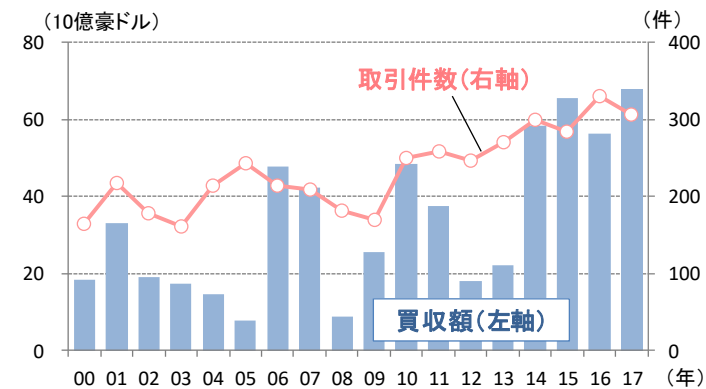
(出所)豪州政府統計局(ABS)、ナショナル・オーストラリア銀行(NAB)  
(期間)2010年1月~2017年11月(企業景況感指数)  
2010年1-3月期~2017年7-9月期(設備投資)

### 図4: 豪州企業の純利益総額の見通し



(出所)ファクトセット (注)S&P/ASX200指数採用銘柄ベース。  
各年度の利益総額は各年6月~翌年5月に年次決算期末を迎える企業の利益を集計。大半の豪州企業の決算期は6月期決算。  
予想はファクトセット集計の市場コンセンサス(2017年11月30日時点)。

### 図5: 海外勢による豪州企業の買収額の推移



(出所)ファクトセット  
(注)2017年は12月15日時点。計画・観測を含む。公表日基準。

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としたのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。